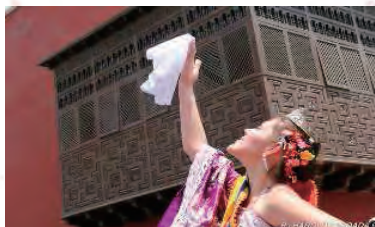




ペルーの代表的舞踊マリネラ ～♡ Bailamos Marinera?～

■ マリネラとは？

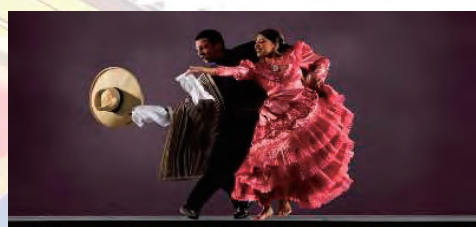
ペルーの国民的伝統舞踊であり、ブラジルのサンバ、アルゼンチンのタンゴに並ぶ“南米三大ダンス”の一つ。ペルー先住民音楽や、征服者スペイン人の音楽文化、アフリカ系奴隷が持ち込んだリズム、こうした様々な文化や音楽がペルーにおいて融合し、「マリネラ」という混血の音楽が誕生しました。そして、ここ日本でも 2011 年より中部地区に広まり始め、各地で開催されるようになったマリネラコンクールでその人気を広めつつある。今年 11 月で第 6 回を迎えるマリネラ・ダンス名古屋代表選抜大会で更なる普及が期待されます。



2014 年度名古屋支部マリネラ・クイーン
ロサ・オルベゴソ今村



2017 年度世界大会優勝
マカレナ・カリージョ (11 月来日)



多様な文化や歴史背景が融合して完成したマリネラ
男女間の愛情をステップや表情で表現する事が特徴

■ マリネラ披露会@愛知県立大学講堂(2017年4月28日(金)8時50分～)

マリネラ普及団体である **CLUB LIBERTAD(クラブ・リベルタ)名古屋支部**によるマリネラ披露会を開催。ペルー、マリネラの歴史や文化的背景を解説、マリネラ・ダンスを披露し、簡単なマリネラ指導も。また、今年度の**マリネラ・クイーン(広告塔的存在)も大募集中**。歴代クイーンは皆初心者なので、**マリネラ初心者も大歓迎**。

■ 第 6 回マリネラ・ダンス名古屋代表選抜大会(2017 年 11 月開催予定)

ペルー文化への理解を促進することを目的として 6 年前にスタート。このコンクールは 3 才児よりシニアまでを対象とした各部門の名古屋代表を決める予選会であり、勝ち抜いたペアは**翌年 1 月ペルーにて開催される世界大会への出場権を獲得**。毎年ペルーからマリネラ専門家や世界大会歴代優勝者を審査委員として招聘し、クオリティーの高いコンクールを目指します。今年は 2017 年度世界大会優勝者ペア等が審査委員として来日予定。

関連サイト：<https://www.facebook.com/clublibertad.marioorbegoso> (調整中)

主催：CLUB LIBERTAD 名古屋支部、ペルー文化普及振興協会

後援：在名古屋ペルー総領事館、愛知県立大学

お問合せ：clublibertad.filiálnagoya@gmail.com (日本語、スペイン語可)

info@clublibertadfiliálnagoya.jp (日本語、スペイン語可)

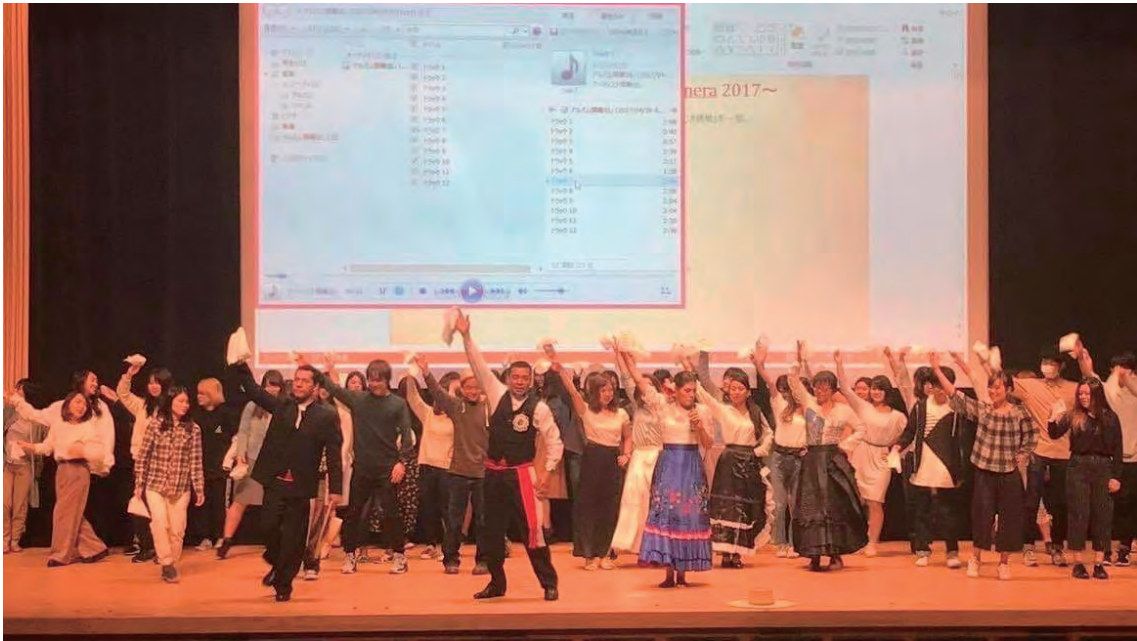
ペルー国民舞踊マリネラ披露会について

愛知県立大学外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻
谷口智子

マリネラとは、ペルーの国民的舞踊であり、ブラジルのサンバやアルゼンチンのタンゴに並ぶ南米三大ダンスの一つといわれている。ペルー先住民音楽や、征服者スペイン人の音楽文化、アフリカ系奴隷が持ち込んだリズムなどがミックスして、民衆舞踊サマクエカが生まれ、そこから「チレーナ」が生まれた。各国がスペインの植民地から独立したあと、チリとペルー・ボリビアが天然資源の硝石を巡って戦った 19 世紀末の「太平洋戦争」で、敗北したペルーがチリの「チレーナ」から分かれて誕生させた創作舞踊が「マリネラ」であった。したがって、「マリネラ」はペルーの国民的アイデンティティ形成と密接に関わっている国民的舞踊である。

愛知県立大学では、2017 年 4 月 28 日(金)1 限の「研究各論(ラテンアメリカ史)」(谷口智子)と「研究各論(南北アメリカ国際関係)」(小池康弘)の授業で、ペルー国民舞踊マリネラ披露会を大学講堂で行った。授業の一環として行ったが、およそ 50 名の学生が参加した。

CLUB LIBERTAD TRUJILLO 名古屋支部という、マリネラを世界中に普及させるべく活動している日系ペルー人の民間団体から講師 4 名が来学した。ペルー文化普及振興協会、在名古屋ペルー総領事館、愛知県立大学、および多文化共生研究所共催であった。マリネラの歴史についての講義もスペイン語と日本語で行われ、視聴覚教材(DVD)として、講義と舞踊実践の様子を映像記録で残した。ペルーの民族舞踊マリネラを初めて踊る体験をした者の中から、授業のみでなく、毎月土日に行われるマリネラ講座を受けにスタジオに通う者も数名おり、結果的に今年度のマリネラ・クイーン日本代表に選ばれた者(本学スペイン語専攻の近藤愛与さん)もいた。2018 年 1 月にペルーのリマで行われる世界大会で模擬演技をするため、出場することが決まっている。今後も要望があれば、このような体験型授業は、定期的に行いたいと考えている(例えば料理教室やラテンアメリカ特有の農業の方法などを実践してみたい)。五感を用いた授業を今後も機会があれば実践していきたい。ラテンアメリカの歴史や文化に対し、より親密感が増すであろうし、学生の興味や好奇心もますます湧いてくると思う。



(撮影:谷口智子)